

2025 年 2 月 6 日

課題名：幼児期の注意欠如多動症の言語発達の阻害因子：
言語発達遅滞を併存しない児との比較

◆研究の目的と概要◆

当院では、5～12 歳までに ADHD と診断された児について幼児期の生育歴を詳細に調べています。本研究では、ADHD 児の幼児期の言語発達の阻害因子を明らかにすることを目的とし、今後のよりよい診療を行うことを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2015 年 4 月から、2024 年 12 月までの間に、倉敷中央病院リバーサイドで ADHD であると診断された方

◆研究に使用される情報・試料◆

WISC-IV 知能検査の結果、背景的因子（性別、在胎週数、出生時体重、継続して治療している内科疾患・神経疾患・精神疾患の有無、自閉スペクトラム症（ASD）の有無、言語発達遅滞の診断の有無、家族歴（両親、きょうだいの ASD/ADHD の有無）、虐待の有無、神経・精神疾患に対する投薬の有無）、身体的因子（運動麻痺の有無、子どものための機能的自立度評価）、社会的因子（同居家族の人数、両親の外国人の有無、所属施設数、療育施設利用の有無、初診時月齢、言語聴覚療法の実施の有無と開始時月齢・期間、作業療法の実施の有無と開始時月齢・期間）

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録（カルテ）等からの情報を利用します。なお、他の機関で研究指導を受ける場合、個人が特定されないように加工します。

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院リバーサイド

地域医療リハビリテーション室 研究責任者 松尾 基史

E-mail：mm13757★kchnet.or.jp（松尾基史）

（★を@に変換して使用してください）

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、臨床研究審査委員会によって「社会的に重要性が高い研究である」等の特段の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明